

様式第3号 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成29年度 第5回 川西市社会教育委員の会		
事務局 (担当課)		教育推進部 社会教育・文化財課 (内線 3421)		
開催日時		平成29年11月16日(木) 10時00分～12時00分		
開催場所		川西市役所 202会議室		
出席者	委員	生田議長、安藤副議長、田中委員、米田委員、桜井委員、細見委員、上西委員、伊藤委員、丸山委員 計9名		
	その他			
	事務局	木下教育推進部長、枅川まなび支援室長、井上社会教育・文化財課長、大屋敷地域こども支援課長・村山中央図書館長、藤井中央公民館長、山中主事 計7名		
傍聴の可否		可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1. 開会 2. 教育推進部長あいさつ 3. 前回の会議録の承認 4. 報告事項 (1)平成29年度兵庫県社会教育委員協議会研究大会について (2)阪神北地区社会教育委員協議会第3回理事会について (3)各協議会等の会議報告について (4)その他 5. 議題 (1)平成29年度年間研究テーマについて 「社会教育の再生～気楽に行ける公民館～」 6. その他		
会議結果		別紙のとおり		

審 議 経 過

NO.1

議長	<p>平成 29 年度第 5 回社会教育委員の会を開会します。 本日の委員の出欠ですが、秋山委員が欠席されています。それでは開会にあたり教育推進部長より挨拶を頂きます。</p>
教育推進部長	<p>(あいさつ)</p>
議長	<p>それでは前回会議録の承認になります。事務局、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(説明)</p>
議長	<p>質問はありますか。ないようですので、前回の会議録については承認いただいたものとします。次に 3. 報告事項に入ります。事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	<p>(1) 平成 29 年度兵庫県社会教育研究大会について 日時：平成 29 年 11 月 15 日(水) 場所：兵庫県民会館 内容：研究主題『豊かな人間関係を育む地域社会の創造にむけた、社会教育の推進』 記念講演 演題：「あたりまえの反対はなんだろう～無人島でイキイキする子ども達～」 講師：NPO 法人生涯学習サポート兵庫 理事長 山崎清治氏</p> <p>分科会： 1 地域人材から学ぶ本物のワザ～公民館ではぐくむ生涯学習の基礎～（西宮市） 2 社会をつなぐ音楽力（加東市） 3 先人の知恵や経験を活かしたまちづくり、ひとづくり（養父市）</p>
議長	<p>講演の中で、無人島の生活の中における子どもの心の動きについて、一つのケースを基にした話がありました。個人的に感じたことですが、大人の目線から分析された話ばかりなので、無人島での子ども達の動きをモルモットのように観察しているような気がしました。普段の生活の中において、子ども達がどのような状況に置かれているかという部分をしっかり考えないと、日常生活における子ども達の生き方については何の解決にもならないです。具体的な子どもへの接し方など参考になりました。講演の後は、第 1 分科会の西宮市の発表に出席しました。土曜日に 2 時間ほどの講座を全ての公民館において小学校、中学校の子を対象に開講しており、公民館主催のかたちで企画し、地域の人材やグループ活動されている方々から選んだ講師のもと、茶道、書道、陶芸など様々な取組みをされているとの話でした。予算は公民館の方で組んでおられているということでした。次に阪神北地区社会教育委員協議会理事会の報告をお願いします。</p>
事務局	<p>(2) 阪神北地区社会教育委員協議会第 3 回理事会 日時：平成 29 年 10 月 2 日(月) 場所：宝塚市役所 内容：阪神北地区社会教育委員協議会第 2 回研修会について</p>

審 議 経 過

NO. 2

	<p>日時：平成30年2月 場所：宝塚市役所 研修会内容：「学校・地域の連携について」（仮題）にて 宝塚市学校支援地域本部事業（たからづか学校応援団） 宝塚市立すみれが丘小学校の事例発表ほかを検討</p>
議長	<p>その他各協議会の報告、連絡はありますか。</p>
事務局	<p>川西市社会教育委員の会議長を長年務めていただいております生田議長が社会教育分野での長年の活動、実績が評価され11月7日に文部科学大臣より社会教育功労者表彰を受けられたことをご報告します。</p>
議長	<p>12年間社会教育委員の議長をさせていただいたことだけです。まだまだ人生は長いと思っていますので、地域活動を含めボランティア活動等に精進していきたいと思っています。それでは、議題に入ります。議題は平成29年度の年間研究テーマということで、本日と2月の社会教育委員の会で任期が終了となりますので、まとめに入りたいと考えています。昨年度審議報告の提言において4つのテーマから、5つの提言を提出しました。中間提言について、もう一度確認をしておきたいと思います。1つ目は川西市における公民館の位置づけを明確にすること、2つ目に公民館を地域住民の新たな共有空間として提供すること、3つ目に地域住民が参画する公民館運営を推進すること、4つ目に地域づくりの担い手となる人材育成に取り組むこと、5つ目に不登校生等の居場所づくりに公民館を活用することについて、これをもとに今年度の社会教育委員の会を進めています。全国的な社会教育を取り巻くところの動向、川西市の公民館の課題を確認しながら、話し合いを進めてきました。第3回の社会教育委員の会では現場の現状を知るため川西南公民館に行き、館長よりお話を頂きました。第4回の社会教育委員の会では、第3回の公民館の現状を参考にしつつ話を進めました。本日も気楽に行ける公民館のあり方について、論議をしていきたいと思います。それらをまとめ、2月の社会教育委員の会にて各委員の確認を経て、教育委員会へ提言を提出したいと思っています。前回、来年から中央公民館は川西公民館になるという話がありました。また市民が公民館の実態を知らないのであれば発信力を高めるべきということで川西南公民館のホームページ開設の実例をもとにしながら、意見をまとめてきました。そこで、お聞きしたいのですが、川西南公民館のホームページ開設を受け、他の公民館はどのような状況でしょうか。学校関係のサイトと、市長部局が管理するサイトがあり、どちらも容量制限があると確認しています。各公民館の現在の状況を教えてください。</p>
事務局	<p>川西南公民館は、公民館独自でホームページを作るということで、実際に立ち上げています。館独自という形式では川西南公民館だけですが、市のホームページに存在する公民館のページはどの公民館も同じ形式をとり、館での催しをPRしています。前回も報告した通り、なかなか更新ができていない状況で、更新をして頂きたい旨、各公民館長にお願いしております。新たに川西南公民館が独自でやっているホームページの運用については、試験的な部分もありますので、それが今後どうなっていくかということも含めて取り組んでいることを公民館長会で紹介し、それぞれの公民館で新しい取り組みができるよう</p>

審 議 経 過

NO. 3

	<p>お願いしています。ただ、すぐに何か変わったかという、まだまだという現状で、このような取り組みをしている中で、1つ1つがきっかけになっていけばと思います。</p>
A委員	<p>市のホームページの更新に関しては、公民館が独自で更新されているのでしょうか。それとも教育委員会のほうにこのように更新して下さいという申し出があってから、教育委員会で更新されているのですか。</p>
事務局	<p>各公民館で更新するシステムとなっています。各公民館でそれぞれの担当を決めてページを作成し、館長など更新の権利がある者が承認の後、ホームページへ掲載するという仕組みになっています。</p>
A委員	<p>各公民館のホームページですが、文字だけのものであったり、何も入っていない公民館もあります。技術面や人材面の影響かと思いながらホームページを見ましたが、職員の方への講習などは実施されていますか。</p>
事務局	<p>公民館で講習を行うことはしていませんが、市の中でホームページの作成の研修が開かれる時があり、学ぶ機会はあります。また、マニュアルがありますので、それを参考に取組んでいくという方法があります。</p>
議長	<p>若者の居場所については、川西南公民館長より南公民館の例を挙げて、公民館の隣に学校や児童館があることから、学校でできなかった部分は公民館の広場でやったり、児童館でやったりという具体的な話がありました。F委員からは公民館での経験から、居場所という言葉を使わなくとも、許容範囲の中で自由に活用できる事例の話がありました。</p>
F委員	<p>若者にとっては、公民館の場所がとても大事だと思います。私はけやき坂公民館しか知りませんが、横にバスケットコートがあり、すぐ近くに広い公園やテニスコートがあるという環境にあるため、子どもから高齢者の方まで、公民館の周りにおられるので、そういう場所であれば、勉強した後に運動することもできますし、緑も多いですから環境はすごく大事であると思います。交通量が多く、スペースも無く、入った瞬間狭苦しいというか、暗い公民館だったら入りにくいですし、公民館に入った時、職員が一旦仕事を中断し顔を上げて、来館者の顔を見て挨拶することができるかが大切です。そういう所だったら来館しやすいと思います。</p>
議長	<p>F委員は一庫公園の管理をやっておられますが、家族連れや子ども達が訪れる一庫公園の姿と、講座を中心に高齢者が集う公民館の姿とは何が違うと思いますか、公民館には何が必要でしょうか。</p>
F委員	<p>連携とよく言いますが、本当の連携とは何かと考えます。先日、加茂幼稚園が一庫公園に来られました。ボランティアの活動グループの方も非常に楽しみにされていました。幼稚園児に説明したり、一緒に遊んだり、物を作ったり、かまどでご飯を炊いたり、共に食事をする、一緒に汗を流すことは子ども達にとって、とても大事だと思います。本当はもっとゆっくりとした時間を過ごせる連携ができればいいと思います。この間、園児</p>

審 議 経 過

NO. 4

	<p>達からまた来たいという感想が送られてきました。ボランティアの方に見せると喜んでおられました。先生の丁寧な指導もあったと思います。公民館でも地域のコミュニティや自治会で、いろいろな行事がありますので、そういう部分をもっと工夫し、楽しい計画をしていけば公民館は楽しいというイメージに繋がっていくと思います。</p>
議長	<p>地域のコミュニティにとって公民館が必要かどうか、公民館で活動されているE委員の意見はいかがですか。</p>
E委員	<p>地域にとって公民館は非常に大切な部分です。気楽に入れる公民館というものは、F委員がおっしゃられたように職員の対応が大事だと思います。前も議論しましたが、公民館の中で気楽にいられる場所、自由に使える場所の確保が必要だと思います。そのような場所を設定しておられる公民館もありますが、まだまだ自由に使える場所がないのが現状だと思います。川西南公民館長も話されていましたが、川西南公民館はそばに中学校や児童館があり、放課後に子ども達も利用するなど良い環境の中で公民館の運営、利用がなされていると思いますし、そういったことが大事だと思います。最近、私の地域でも子ども食堂というものを地域で作りました。子ども食堂へ来ることもいいとは思いますが、公民館やコミュニティ会館へ来るのが、高齢者も含めた地域の活性化に繋がります。そのためには地域住民がもっと理解をし、地域住民から踏み込んで子ども達との関わりを深める機会を作っていないといけない。誰かが作ってくれるのを待っていてもいけないということで、公民館の活動もそうですが、みんなが参加しやすい環境づくりを行うのが、我々の責任だと思います。</p>
議長	<p>こども食堂を地域が実施されているのですか。</p>
E委員	<p>コミュニティで立ち上げられた。</p>
議長	<p>どのような発想で子ども達のための場を作ろうという話が出てきたのですか。</p>
E委員	<p>もともとはどうだったかは分かりません。</p>
議長	<p>子ども達の置かれている現状が厳しくなっているように感じます。子どもの実態を反映させ、地域社会で何とかしようというところではないかと思いますが、D委員はいかがですか。</p>
D委員	<p>こども食堂のことでと申しますと、貧困層の子どもが、最新データでは7人に1人となりました。川西市で申しますと、川西保育所のあたりにおいて、1人親家庭が多く厳しい状況です。今後、実際にその方々と繋がる方法があるかどうかが問われてくると思います。「社会教育の再生～気楽に行ける公民館～」の1番最初の核は「地域のこども館を自由に」だったので、それが教育委員会への報告書の1番最初の前書きに入らないといけないと思います。これは公民館の話ではなく川西市全体において、子ども達が行きやすくなるようにということをお願いするのだから公民館問題ではないということがあります。また、どうして行きづらくなっているかというと、学校現場に負担が集まり教員達も子ども</p>

	<p>の話をお聴きする余裕がなくなっていること、学力テスト主義の影響から授業を効率的にしないといけなとか、規律的になっている状況があるということだったと思います。教育推進部長の挨拶に、授業の中で自分の居場所があるということが一番大事だという話がありました。教師が子どもの居場所を作れないぐらいに、教えないといけなことが多く、掃除もゆっくりやっている時間が無いため無言清掃になるという状況に対しての提言をしておかないと、報告書の内容が社会教育だけで完結してしまいます。この報告書は全ての教育の再生を目指しているという作り方が必要だと思えます。その枠組みを確認したうえで、公民館の中の話をするのは良いと思えますが、それ抜きで公民館問題となりますと、公民館職員の仕事の軽減や地域住民の参画という独立した話になってしまうので、学校教育の救出に繋がるという話になるよう捉え返されるほうが良いと思います。</p>
<p>I 委員</p>	<p>若い先生の公開授業を見てきました。子ども達が自分自身や周りとは相談しながら行う数学の授業でした。子どもが考え、前へ出て行って説明するたびに他の生徒が拍手します。その子のがんばりを認めるという印象を受け、そのような積み重ねがとても大切だと思えました。ただ、学校現場が大変忙しいのは事実です。指導要領が改訂され、子ども達を育てていく資質や能力について様々な提言があり、そういう授業を目指すべきだとは思いますが、高校入試の形が少しも変わらないことが問題だと思えます。ようやく大学入試を変えようとしていますが、変わらず知識を問うような問題を実施していけば、それに縛られた授業をせざるを得ません。よく主体的、対話的、深い学びとアクティブラーニングと言われていますが、そういう授業を目指すのであれば、入試のやり方が変わっていないのも事実です。しかし、様々な行事や日々の生活の中で、子ども達が助け合ったり、支えあったり、繋がる関係というのを大事にしていけないと思っています。先日、明峰公民館の文化祭に行きました。様々な講座や活動があり、作品も展示されていました。子ども達の習字とか絵も展示してありました。明峰公民館長とも話をし、高齢者中心とはなっていますが、そういう場があるということはとても大事だと思えました。図書室がどこかわからなかったの、確認をした際に、こどもたちが来ていますかと尋ねると、中学生は部活などでなかなか来ないけれど小学生や高校生、それから浪人生が勉強する場として利用していると聞きました。公民館は様々な機能を持っている場です。やはり我々が入って行くときに温かく迎えていただけることが入りやすさという点で大事だと思えます。</p>
<p>D 委員</p>	<p>西宮市は甲子園で中学校が全部集まって行進をしているのですが、中学校の現場は、規律とか声をかけるということが素晴らしいという昭和の雰囲気が残っています。声が出せないことは、訓練されていないから出ないのではなく、いろいろなものを背負っているから出ない。オンブズパーソンなどが関わってそこを理解する際には現場やクラス、学校の時間のゆとりが必要です。それが無いために来年4月から教科に入る道徳にはしらないといけなような状況になっています。学校教育の現場は、もう学校だけでは対応できないぐらいきつくさせられているということ、捉え返したほうが良いと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>川西南公民館長から社会教育の分野に、行政が関わりすぎない方がいいという意見をうかがいました。E委員がおっしゃられたように地域住民の諸団体などに色々な事業を積極的にやっていただく。ただ行政としては場の提供というかたちで関わり、それだけでは難</p>

審 議 経 過

NO.6

B 委員	<p>しい面もあるので、公民館側でもいろいろな企画を実施し、さらに学校との連携が必要かと思ひます。</p> <p>川西南中学校の評議委員会に出席し、アンケートについて聞きました。その中で「地域の行事に参加していますか」という質問に対し、川西市全体のように、川西南中学は特に回答が低かったようです。全国アンケートなので郡部など地域ぐるみで活動しているというところも対象に入っているため、差は大きくなるという話もありましたが、中高生の興味を惹く行事が少ないと感じます。E 委員が言っておられたように子ども達が来るのを待つのではなく、もっと興味のあるものを取り入れていかないと、子ども達は離れていくと考えます。川西南中学校でも、子どもの話を聴く、教育相談の時間をとっておられます。PTA側から出席された保護者の方が子どもにどのような話をしたか聞かれたようで、先生から「なにか困っていることはないか。」と聞かれて「ない。」「なんかあるか。」「ない。」「みんな、「ふつう。」「べつに。」で終わったと聞きました。きっと悩みがない子なんていないと思ひます。みんな色々抱えているけれど、先生に言うとは指導があり、言いにくのではないかと思ひます。ボランティアで学校の図書室にいと、子ども達は私をひとりのおばちゃんくらいに思っているようで、色々なことを話してくれます。先生は指導をしなければいけない立場なので、笑って聞いているだけではすまないのだと思ひますが、子ども達の話話を聴き、気持ちを受け止める場として、公民館を活用できたらと思ひます。</p>
I 委員	<p>全国学力学習状況調査の質問調査に「地域の行事に参加していますか」というのがあります。割合が少し低いのですが、子ども達も夏祭りは行っていますので、あれも地域の行事であると説明してから調査をするともっと数値は上がると思ひます。地域の行事と云ってしまうと、中学生は堅苦しいものをイメージするので、地域の行事に關しての説明が必要であると、校長会においても話題になりました。また、先程の教育相談の話ですが、もっと具体的な話を引き出すような教師側の聴き方、持って行き方が大事だと思ひます。</p>
D 委員	<p>面談ではない時に話がしたい時もあります。ただ先生は忙しいので、聴いてくれる時間しか聴いてくれないと子ども達は言ひます。</p>
I 委員	<p>うちの学校では、昼休みの時間に昼食が終わっても担任が職員室に戻ってこないです。ということは教室にいたり、廊下にいたりするなかで、生徒たちと何気ない会話をしているのだと思ひます。</p>
D 委員	<p>それは言える子が言っているだけだと思ひます。</p>
I 委員	<p>川西市内の中学校では教師は毎日二行日記をやっています。言えない子も毎日二行書きます。</p>
D 委員	<p>それでまた先生が多忙化するのでは、</p>
I 委員	<p>しかしそうすることによって、クラスでも目立たない、声をかけてこない子と会話がで</p>

審 議 経 過

NO.7

D委員	<p>きる。それは大事なことです。私もやっていますが、最初はコメントを書くのに1時間近くかかっていました。なかには、「今日はだるかった。」としか書かない男子もいますが、そういう会話は積み重ねだと思えます。忙しいからやめようとする、本当に子どもと会話ができません。</p> <p>「みんなの学校」の木村先生は、先生が雪だるま式に忙しくなることを避けるために、生徒には書いてもらうけど、先生は返事を書かない。特に気になった子だけに会うようにしています。30人分40人分の返事をするとなると、毎日2時間ほど時間をとられてしまうのではないのでしょうか。</p>
I委員	<p>慣れたら30分くらいです。</p>
D委員	<p>書くことが少ないとか。</p>
I委員	<p>子ども達も返事を読みますし、それは愛情のかけ方によると思います。</p>
D委員	<p>先生方はきっちりされているから、先生の精神疾患、鬱は普通の仕事の倍の出現率です。学校自体ががんばりの塊になってしまっていると思います。</p>
議長	<p>D委員はその分野の専門の学者でもあります。現場サイドから意見などありますか。</p>
H委員	<p>小学校は子ども達が帰るまで学級担任が教室にいます。そこが中学校と違う状況にあると思います。子どもの生活がすべて見える中で、放課後、帰ってからの居場所があったらと思う子ども達がいいます。例えば先程、貧困の話が出ましたが、小さければ小さいほど家庭の影響が大きいです。今回、自然学校に行きましたが、必要なものが揃わず、学校で揃えた家庭もありました。家庭がそういう準備ができない状況のところでは保護者が疾患をお持ちだとか、不登校も含め、そういう子ども達を受け入れる、気軽に行ける場所が必要ではないかと思います。公民館に子ども達が気軽に行けるか、行って何ができるかと考えると、最初の一步がすごく大事だと思います。桜小校区は総合センターが近くにあり、子ども達が学校から帰っても受け止めることができる空間があります。そのようなところが各地区公民館にあり、子ども達をキャッチができるシステムがあれば、子ども食堂などのかたちで、家庭や子どもに関わっていくことが、民生委員とのネットワークなどでできるのではないかと。またそのネットワークを広げる中で、生きにくさを持った方々が行ける受け皿になれたらいいのではと思います。公民館は趣味などのグループができあがっています。そういうグループの方々は、固まって属せる方々です。属せない方や、属せない子ども達が何かできるような状況があればいいですね。例えばこどもの発想での参画というのができないか考えています。桜小校区のコミュニティは川西市コミュニティチャレンジ事業にエントリーしました。夏祭りを活性化しようということで、盆踊りの踊り手を育てることを目的に子ども達が踊りの練習ができるシステムや夏祭りの中で子ども達がお店を開いて参画できないか。また運動会で3、4年生が太鼓をもって「島人の唄」を踊ったのですが、その踊りを夏祭りの中で踊り、子ども達が中心となって地域を活性化していくなど、そういうことが点と点でつながることで居場所ができたり、地域の人と繋がったりする。</p>

<p>C委員</p>	<p>それが公民館という公的な場所で何かができるヒントになるのではないかと考えています。</p> <p>北陵の公民館長は、北陵の学校が長かった方なので、子ども達が公民館に遊びにくるようです。子ども達が気楽に来ているというのは違う意味かもしれませんが、その様子を気にかけて下さっており「公民館においで」とオープンな形にして下さっています。さきほどチャレンジ事業の話が出ましたが、北陵では深山池公園の中でよく街カフェをしています。40代50代の若い人たちを中心に、公園の一角に建物を建て、そこをカフェにしてみんなで集える場所になったらいいのではという話にコミュニティでなっているのはいいことだと思います。子ども達との関わりでは、お祭りの放送などは北陵高校の生徒達にしてもらったり、中学生にコーラスをお願いするなど、なるべく子ども達がコミュニティの中に入れる状況を作っています。また、放課後子ども教室の中では北陵高校の化学部に来てもらうなど、広がりを持ちつつ全体に取り込めたいなと思います。高齢者が多くなってきた中で高齢者を大事にしながらも、行き場のない子ども達をまち全体で大事にしていきたい気持ちがあることが非常にありがたいことだと思っています。</p>
<p>議長</p>	<p>個人的にですが、公民館に高齢者が集まることはなにが悪いのかという考えです。高齢者問題の解決になるのではないかと思います。公民館だけの問題ではないですが、川西市の公民館の講座を見ていると、地域の諸団体、社会福祉協議会などの様々な団体と連携した講座を開いておられるのは大事なことだと思いますが、もう少し自由にたむろできるオープンな場がほしいなというくらいでいいのではないかと思います。川西市については、学校現場を経験された嘱託館長が10館のうち6人もおられますので、川西市独自の発想で公民館運営ができればよいと思います。そういう中で何気なく子ども達が自由に行けるスペースがあることが大切だと思います。学校では何もないと言っている子が自身で直接訪ねてきたり、電話したりすることができる独特のシステムを川西市は持っているので最低限のところはできていると思っています。本当にしんどい子や学校でも家庭でも見えなかったような問題に対して、機関として関わる組織があるので、それはそれで頑張っていないといけないと思っています。</p>
<p>I委員</p>	<p>日本の学校はいろいろなことをやりすぎています。欧米は、授業が終わったら終わりです。掃除、給食、行事など、ありとあらゆることを日本の教師が頑張っているがあまり評価されていない。昨日も評議委員会の中で、他校と比べて部活の種類が少ないので増やしてくださいという意見が出ました。教師の現状からいうと、専門性がない先生が担当している部活もあり、維持するのが精一杯だと言っても、うちの子がやりたい部活がない、文化部も吹奏楽と美術しかないので家庭科部や茶道などの部活を実施して欲しいという意見が出ます。西宮市の事例のように公民館で土曜日に月1回でもダンスや手芸の講座があり、中学校でアピールすれば行きたい子は行くと思います。お金があれば習い事に行っている子もいますが、あまりにも学校に受け皿を求めすぎているように思います。</p>
<p>議長</p>	<p>勤務の適正化の報道はされていますが、何十年たっても同じような問題が出てくる。</p>
<p>I委員</p>	<p>文部科学省が予算の問題から、根本的、抜本的なことをやろうとしない。全て学校、教</p>

審 議 経 過

NO. 9

	<p>師任せです。部活動指導員は大会の引率はオーケーで、先生は来なくてもいいですと言いつつ、部活動指導員に経済的保障は何もしない。</p>
議長	<p>部活動補助員のような形で予算化できたのが20年ほど前ですが、今も川西市はその程度ですか。</p>
事務局	<p>部活には、指導員を付けさせていただいています。</p>
A委員	<p>公民館は子どもから高齢者まで利用しますが、高齢者の方を対象にした講座が多くあるため、高齢者の方が来やすいのかと思います。その中でも引きこもっておられる高齢者をなんとか家から出してあげたいと思います。先程、子どもの発想で決める、参画できる行事ということをH委員がおっしゃっていました。子ども達も入れて、決めていって実行していけたらと思いました。何人かの子どもさんに集まっていたいて、子ども達がやってみたい講座を実施していくなど、子ども達も忙しいですが、なにか先生方と子どもが協力してやっていたらと思いました。</p>
B委員	<p>先程ホームページは各公民館で更新されていると聞きました。若い方はパソコンが得意な方が多いことを活かし、ホームページを作って発信してみるのはいかがでしょうか。公民館に来館して欲しい中学生、高校生の立場から、どういう情報を発信したらいいか本人たちに聞いて得意な子にホームページの更新を手伝ってもらおうのはいかがでしょうかと思いました。</p>
議長	<p>子どもの声を聴くというか、そういうことを社会教育ラインで企画して、場を提供していくということでしょうか。</p>
B委員	<p>現場も助かると思います。</p>
議長	<p>お金のことは考えずにやれる範囲の部分で連携する必要があるのではないかと。南公民館の話聞いていたらお金がかかっていないですね。かかっていない形で、場の提供であったりなど、館長の権限でやっていくという積極性が必要だと思います。館長会で一人の館長が言ったとしても、他の館長ができる、できないはあるかと思いますが、PRや発信方法をについて事務局からはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>それぞれの館には、地域性もありますので、その中でできることを探っていくといけません。館長の独自性や地域の方の発想をうまくお互いに共有できる場があつて一つのものができてくるのかなと思っています。ただ、市として許可できる部分とできない部分があるので、お互いに常に連絡を取り合いながら変えられるところは変えていく、そういう進め方をしないといけないと思います。</p>
議長	<p>B委員にお聞きしたいですが、子ども達の指導などで市内を回って活動されていますが、そういう部分で公民館についてご意見いかがですか。</p>
B委員	<p>幼稚園の間までは行けるスペースはあるし、市内でも中学校区に一つということを進め</p>

審 議 経 過

NO. 10

	<p>られています。清和台地区と明峰地区は今のところはできていませんが、それ以外は大体あり、出張などで行かせていただくことがあります。</p>
議長	<p>場所はどこですか。</p>
B委員	<p>固定されてあるのはアステ市民プラザと総合センターと牧の台小学校の中に部屋を借りている3か所です。あと北陵公民館とけやき坂公民館と清和台公民館は月2回出張プレイルームがあります。</p>
議長	<p>それはどのラインが実施しているのですか。</p>
B委員	<p>教育委員会です。</p>
C委員	<p>お母さんたちのグループがやっていますから、けっこう未就学の時は行ける場所があります。</p>
B委員	<p>兄弟関係になって、上の子が小学校行ってしまったら、その子はプレイルームに入れな いため、下の子は入れるけど入れないと言われて、結局下の子も連れてどこかに行かない といけないということになっています。</p>
I委員	<p>昨年の4月入学直後に1年生の女の子2人が、校長室に来たことがありました。ダンス 部作ってくれませんかというお願いでした。やっぱりやりたいのだなと思いつつ、難しい という話をしました。先程の参画というところを活用していただけたらありがたいと思 いますが、中学生に開放しようとする、土曜日しかないのですが、誰がその世話をす かとなると、先生となる。先生は部活もあるし、そちらもとなると大変です。公民館職員 の方が世話をしていただけるとかという、また公民館は公民館の事情があるでしょうし、 そのあたりの受け皿を考える必要があると思います。子どもにとってそういう場所がある というのはすごく大事だと思いますので、みんなで考えていく必要があると思います。</p>
D委員	<p>部活を公民館が引き受けられたいですね。</p>
I委員	<p>講座のようなものを月1回でいいので実施していただけたらと思います。</p>
議長	<p>西宮市がこのパターンで予算を組んでいます。絵画であったり、囲碁であったり、文化 的な分野ですが、元教師や地域の同好会の会長さんなどを講師にして土曜日に開講されて います。これは多分、学校五日制になった時に定例化したのではないかと思います。川西 市の公民館は他市の公民館と違って行政センターが併設しています。逆にそれを活用でき ないかと思います。職員にとっては、行政センターの業務は大変ですが、改めて考えると 地域住民が行政手続きをするために公民館へ来館することが多い。手続きをしに来たつ いでに色々話ができる場所だと考えます。川西市独自の部分をうまく使う方法はないだ ろうかと考えますが、E委員はどうでしょうか。</p>

審 議 経 過

NO. 11

E 委員	<p>確かに行政部分の仕事が多いので、そのあたりも含めて使える部分を作ることが大事だと思います。今、学校のことで議論が進んでいます。私もオープン参観など長年参加させていただいていますが、授業もずいぶん変わってきていると思います。話は変わりますが、昨日の夜、私のところに話があると来られた子がいました。何十年も前には、先生には相談しにくいということで、よくうちの方にも来られた方がおられました。最近ではそういう相談は全然ありません。現在でも教室の授業に出ることができない子や家庭的に問題があり、いろいろと悩みを持っている子もいるので、そういう方が自由に来ることができる場所を作り、お互いに交流、長話ができる環境を用意していかないといいけないと思います。</p>
議長	<p>E 委員は民生児童委員もされておられますし、私もオンブズパーソンの定例会でケース会議というものがありますが、家庭の中での問題も含めて、子どもの SOS が多いです。川西市の場合はオンブズパーソンという制度があるのですが、子どもの心を聴くということ、現状の認識と同時に問題の原点の部分では、常に民生児童委員と連携をしていかないと学校の先生方も大変な状態です。地域社会の問題であるという認識の中で子ども食堂という発想も出てきたのではないかと私は思います。オンブズパーソンでは、若者への対応について市に対して提言を行っています。ホームページなどにも出しますので見ていただいたらと思います。それでは2月にたたき台的なものをまとめて提示させていただきたいと思います。D 委員、なにかありましたらお願いします。</p>
D 委員	<p>問題になっているのは、排除して包摂するという論理です。学校で教師も子どもも必死でがんばる。その中で排除したものを受ける受け皿をつくるというのが、今、全国的に進んでいます。子ども食堂や居場所も作るけど、排除する側をよく考えないといいけないというのが最近のピンポイント論点です。川西市でもオンブズは制度化されています。個別救済と制度化はセットで、個別救済だけではいけません。それをしんどくさせていることも絶たないといいけないというのを、先程も言葉を変えて言っていますが、この報告書の一番の頭で核であることを共有しておきたいと思います。2050年には人口が9千5百万になる予定ですが、団塊の世代が亡くなる、もしくはようやく生きていくという時に、そこでがんばるのは、今の中学生と小学生です。その時につながりがなかったら、私たちはみんな捨てられる運命なので、つながっておいで、地域は悪くないということを子ども達を尊重してやっていかないと大変な目に合います。今後20年ほどで、団塊の世代は元気に動けない時代がきます。その時、20代30代のがんばりどころだと思います。それで貧困をこのまま再生産し、学校に押し付けてしまうと、もう日本は破滅すると思います。</p>
議長	<p>来年2月の社会教育委員の会が今年度最後の社会教育委員の会となります。また、例年行っております教育委員の方々との意見交換ですが、開催するかどうかもを含め、事務局と相談したいと思います。詳細等については、議長、副議長、事務局にらせていただいでよろしいでしょうか。</p> <p>(各委員賛同)</p>
議長	<p>最後に事務局から事務連絡です。</p>

審 議 経 過

NO. 12

事務局	今、議長から話がありましたとおり、教育委員との懇談会につきましては、議長、副議長と相談させていただきたいと思います。次回の社会教育委員の会は、平成30年2月22日10時から川西市役所202会議室で開催予定です。
議長	第5回社会教育委員の会を終わります。